皮膚リンパ腫　全国症例数調査の結果（2020年版）

藤井　一恭、島内　隆寿、浅井　純、藤澤　康弘、加藤　則人

（皮膚がん予後統計委員会）

日本皮膚悪性腫瘍学会
COI開示
藤井一恭
演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

結果１：新規症例登録数

	Total No.	Total %	Neoplasm category	Male No.	Female No.	M/F	Age Median	Age Average±sd	Age Range
Total	**476**		**%**	**273**	**203**	**1.34**	**69**	**64.8 ± 18.1**	**99 - 3**
T細胞/NK細胞リンパ腫	**384**	**80.7**	**100**	**219**	**165**	**1.33**	**67**	**62.8 ± 17.9**	**97 - 3**
菌状息肉症	229	48.1	59.6	128	101	1.27	67	63.4 ± 15.9	97 - 19
セザリー症候群	5	1.1	1.3	2	3	0.67	78	73.6 ± 16.2	96 - 48
原発性皮膚CD30陽性リンパ増殖症	62	13.0	16.1	34	28	1.21	64.5	59.3 ± 23.1	92 - 3
原発性皮膚未分化大細胞リンパ腫	43	9.0	11.2	25	18	1.39	71	65.5 ± 19.8	92 - 18
リンパ腫様丘疹症	19	4.0	4.0	9	10	0.90	52	45.4 ± 23.9	73 - 3
成人T細胞白血病・リンパ腫（くすぶり型のみ）	24	5.0	6.3	13	11	1.18	70.5	65.9 ± 14.9	84 - 32
種痘様水疱症様リンパ増殖症	0	0.0	0.0	0	0	–	–	– –	– –
節外性NK/T細胞リンパ腫、鼻型	16	3.4	4.2	12	4	3.00	67	59.4 ± 21.5	89 - 6
皮下脂肪織炎様T細胞リンパ腫	8	1.7	2.1	6	2	3.00	39	40.0 ± 13.9	65 - 18
原発性皮膚γδT細胞リンパ腫	2	0.4	0.5	1	1	1.00	45	45.0 ± 32.0	77 - 13
皮膚原発 CD8 陽性劇症表皮向性細胞傷害性T細胞リンパ腫	1	0.2	0.3	1	0	–	70	70 –	– –
原発性皮膚末端性CD8陽性T細胞リンパ腫	1	0.2	0.3	0	1	0.00	66	66 –	– –
原発性皮膚CD4陽性小・中T細胞リンパ増殖異常症	13	2.7	3.4	6	7	0.86	68	65.5 ± 13.3	88 - 44
末梢性T細胞リンパ腫、非特定（皮膚原発）	23	4.8	6.0	16	7	2.29	69	71.0 ± 13.8	92 - 43
B細胞リンパ腫	**84**	**17.6**	**100**	**48**	**36**	**1.33**	**76**	**72.2 ± 16.1**	**97 - 19**
粘膜関連リンパ組織の節外性辺縁帯リンパ腫	20	4.2	23.8	9	11	0.82	74.5	69.2 ± 18.5	91 - 19
原発性皮膚濾胞中心リンパ腫	17	3.6	20.2	10	7	1.43	74.	70.3 ± 12.4	90 - 47
原発性皮膚びまん性大細胞型B細胞リンパ腫、下肢型	41	8.6	48.8	27	14	1.93	77	75.5 ± 14.5	97 - 22
EBウイルス陽性粘膜皮膚潰瘍	3	0.6	3.6	1	2	–	48	50.3 ± 21.7	78 - 25
その他の皮膚B細胞リンパ腫	3	0.6	3.6	1	2	0.50	76	79.3 ± 4.7	86 - 76
芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍	**8**	**1.7**		**6**	**2**	**–**	**87.5**	**81.8 ± 17.4**	**99 - 41**

結果２：全症例登録数

	Total No.	Total %	Neoplasm category	Male No.	Female No.	M/F	Age Median	Age Average±sd	Age Range
Total	**2381**		**%**	**1349**	**1032**	**1.31**	**69**	**65.6 ± 16.3**	**99 - 3**
T細胞/NK細胞リンパ腫	**2180**	**91.6**	**100**	**1236**	**944**	**1.31**	**69**	**65.2 ± 16.2**	**99 - 3**
菌状息肉症	1625	68.2	74.5	915	710	1.29	69	65.6 ± 15.5	99 - 12
セザリー症候群	31	1.3	1.4	23	8	2.88	68	67.0 ± 15.0	96 - 30
原発性皮膚CD30陽性リンパ増殖症	250	10.5	11.5	141	109	1.29	65	61.8 ± 19.1	92 - 3
原発性皮膚未分化大細胞リンパ腫	158	6.6	7.2	99	59	1.68	70	65.5 ± 17.9	92 - 16
リンパ腫様丘疹症	92	3.9	3.9	42	50	0.84	55	55.5 ± 19.4	91 - 3
成人T細胞白血病・リンパ腫（くすぶり型のみ）	103	4.3	4.7	52	51	1.02	72	70.1 ± 11.9	91 - 32
種痘様水疱症様リンパ増殖症	2	0.1	0.1	2	0	–	47.5	47.5 ± 32.5	80 - 15
節外性NK/T細胞リンパ腫、鼻型	31	1.3	1.4	20	11	1.82	66	61.5 ± 20.6	89 - 6
皮下脂肪織炎様T細胞リンパ腫	28	1.2	1.3	13	15	0.87	49	50.3 ± 18.4	85 - 14
原発性皮膚γδT細胞リンパ腫	4	0.2	0.2	1	3	0.33	50.5	47.8 ± 25.9	77 - 13
皮膚原発 CD8 陽性劇症表皮向性細胞傷害性T細胞リンパ腫	2	0.1	0.1	2	0	–	72	72.0 ± 2.0	74 - 70
原発性皮膚末端性CD8陽性T細胞リンパ腫	1	0.0	0.0	0	1	0.00	66	66 –	– –
原発性皮膚CD4陽性小・中T細胞リンパ増殖異常症	23	1.0	1.1	13	10	1.30	68	59.7 ± 20.8	88 - 5
末梢性T細胞リンパ腫、非特定（皮膚原発）	80	3.4	3.7	54	26	2.08	72	69.2 ± 15.6	93 - 16
B細胞リンパ腫	**187**	**7.9**	**100**	**102**	**85**	**1.20**	**73**	**69.4 ± 16.4**	**98 - 19**
粘膜関連リンパ組織の節外性辺縁帯リンパ腫	69	2.9	36.9	30	39	0.77	65	64.7 ± 17.1	98 - 19
原発性皮膚濾胞中心リンパ腫	41	1.7	21.9	24	17	1.41	72.	69.5 ± 15.7	94 - 28
原発性皮膚びまん性大細胞型B細胞リンパ腫、下肢型	65	2.7	34.8	44	21	2.10	78	74.4 ± 14.5	97 - 23
EBウイルス陽性粘膜皮膚潰瘍	3	0.1	1.6	1	2	0.50	48	50.3 ± 21.7	78 - 25
その他の皮膚B細胞リンパ腫	9	0.4	4.8	3	6	0.50	76	74.8 ± 7.5	86 - 61
芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍	**14**	**0.6**		**11**	**3**	**3.67**	**84.5**	**78.6 ± 15.5**	**99 - 41**

結果３：続発性リンパ腫登録数

	新規診断症例 No.	新規診断症例 %	Male/Female No.		M/F	全診療症例 No.	全診療症例 %	Male/Female No.		M/F
合計	**239**	**100**	**132 /**	**107**	**1.23**	**430**	**100**	**244 /**	**186**	**1.31**
びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	66	27.6	30	36	0.83	105	24.4	52	53	0.98
粘膜関連リンパ組織の節外性辺縁帯リンパ腫（皮膚外原発）	5	2.1	1	4	0.25	18	4.2	7	11	0.64
濾胞中心リンパ腫（皮膚外原発）	14	5.9	5	9	0.56	29	6.7	13	16	0.81
マントル細胞リンパ腫	2	0.8	1	1	1.00	2	0.5	1	1	1.00
形質芽細胞リンパ腫	2	0.8	0	2	0.00	2	0.5	0	2	0.00
血管内リンパ腫	50	20.9	33	17	1.94	55	12.8	34	21	1.62
成人T細胞白血病・リンパ腫（くすぶり型以外）	40	16.7	28	12	2.33	96	22.3	63	33	1.91
血管免疫芽球性T細胞リンパ腫	9	3.8	5	4	1.25	15	3.5	9	6	1.50
ALK陽性未分化大細胞リンパ腫	3	1.3	2	1	2.00	5	1.2	3	2	1.50
ALK陰性未分化大細胞リンパ腫	11	4.6	9	2	4.50	26	6.0	21	5	4.20
末梢性T細胞リンパ腫、非特定（皮膚外原発）	8	3.3	5	3	1.67	14	3.3	7	7	1.00
ホジキンリンパ腫	6	2.5	4	2	2.00	10	2.3	8	2	4.00
その他の医原性免疫抑制関連リンパ増殖性疾患	9	3.8	1	8	0.13	18	4.2	2	16	0.13
移植後リンパ増殖性疾患	0	0.0	0	0	–	0	0.0	0	0	–
ランゲルハンス細胞組織球症	1	0.4	0	1	0.00	6	1.4	4	2	2.00
その他	13	5.4	8	5	1.60	29	6.7	20	9	2.22

結果３

1. 続発性皮膚リンパ腫に関しては新規診断症例として239例、全診療症例として430例の登録があった。
2. 新規診断症例として最も多かったのはびまん性大細胞型B細胞リンパ腫で66例、次いで血管内リンパ腫50例、成人T細胞白血病/リンパ腫（くすぶり型以外）40例の順であった。
3. 全診療症例ではびまん性大細胞型B細胞リンパ腫が105例と新規診断症例の1.6倍、血管内リンパ腫は55例と同じく1.1倍であるのに対し、成人T細胞白血病/リンパ腫（くすぶり型以外）が96例で2.4倍、少数例の登録ではあるものの、粘膜関連リンパ組織の節外性辺縁帯リンパ腫（皮膚外原発）が3.6倍、ALK陰性未分化大細胞リンパ腫が2.4倍、その他の医原性免疫抑制関連リンパ増殖性疾患で2倍となっており、既診断症例の再診例が多いことが明らかになった。これらの疾患に対する皮膚科医の治療介入の頻度が高い可能性がある。

結果４：デュピルマブ投与後に発症したリンパ腫

背景

デュピルマブはIL-4/IL-13受容体を阻害することで効果を呈するアトピー性皮膚炎の治療薬である。Chiba らの報告[1)]以降、デュピルマブ投与に関連して発症した皮膚リンパ腫の報告が相次いでいる。今回の調査ではデュピルマブの使用歴についてもアンケートを行った。

結果４

1. 今回のアンケート調査で登録された2811例のうち、18例でデュピルマブの投与が行われていた。（上記1)の症例を含む）
2. 18例の内訳は菌状息肉症11例、セザリー症候群2例、皮膚原発未分化大細胞リンパ腫2例、成人T細胞白血病/リンパ腫1例、続発性リンパ腫2例であった。
3. 菌状息肉症/セザリー症候群では、投与で皮疹が軽快し中断後に増悪した症例が1例、投与中にアトピー性皮膚炎が軽快し、菌状息肉症の病変が明らかになった症例が1例認めたが、他の多くの症例では使用により皮疹が増悪しリンパ腫の診断が付いていた。
4. 18例中10例において2020年中に診断がついており、今後デュピクセントの使用例の増加に伴い、同様の症例が増加する可能性がある。

1) Chiba T, et al. Acta Derm Venereol. 2019; 99: 88– 819.

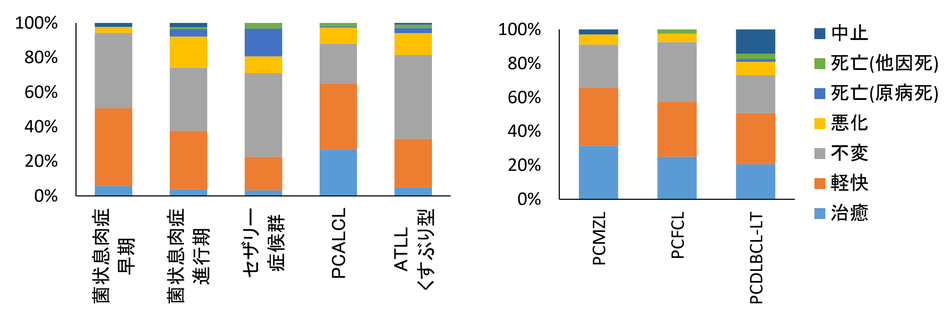
結果１

1. 2020年の新規診断症例として690例の登録があった。そのうち原発性皮膚悪性リンパ腫は476例、続発性皮膚悪性リンパ腫は214例（結果3）であった
2. 原発性皮膚悪性リンパ腫全体では男女比が1.3と男性に多く、診断時年齢の中央値は69歳、平均値は64.8歳で、これらは例年とほぼ同様であった。
3. T/NK細胞リンパ腫が80.7%、B細胞リンパ腫が17.6%、芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍が1.7%であった。
4. T細胞/NK細胞リンパ腫の中では発症頻度が高い順に、菌状息肉症59.6%、原発性皮膚CD30陽性リンパ増殖症13.0% 、成人T細胞白血病/リンパ腫（くすぶり型のみ）5.0%、末梢性T細胞リンパ腫、非特定（皮膚原発）4.8%であった。
5. 菌状息肉症のうち早期のものは165例（72.1%）、進行期のものは64例（27.9%）であった。
6. B細胞リンパ腫では原発性皮膚びまん性大細胞型B細胞リンパ腫が最も多く、48.8%を占めた。

結果２

1. 原発性及び続発性の皮膚リンパ腫併せてのべ2811例の登録があり、2381例が皮膚原発悪性リンパ腫、430例が続発性リンパ腫であった。
2. 新規診断症例（結果１）と比べ、菌状息肉症の割合が増えており、相対的にB細胞リンパ腫の割合が減っている。菌状息肉症の早期患者は1258例（77.4%）、進行期患者は367例（22.6%）であった。既診断症例（全症例数から新規診断数を引いたもの）では早期患者の割合が多く($p = 0.036$, chi-square test)、菌状息肉症の早期患者の多くが長期予後良好であることの裏付けとなるデータとなった。
3. B細胞リンパ腫の中では粘膜関連リンパ組織の節外性辺縁帯リンパ腫の占める割合が新規診断症例と比べて増えている。

結果2-2：皮膚リンパ腫の転帰



結果２－２

1. 菌状息肉症（早期）では50.6%が軽快以上、94.3%以上が不変以上であったが、進行期では軽快以上が37.6%、不変以上が74.1%で、悪化及び現病死が22.3%を占めた。セザリー症候群も軽快以上が22.6%、不変以上が71.0%で悪化及び現病死が25.8%を占めた。
2. 皮膚原発未分化大細胞リンパ腫(PCALCL)では軽快以上が65.1%、不変以上が87.9%で、悪化及び現病死が10.1%であった。
3. 成人T細胞白血病/リンパ腫(ATLL)（くすぶり型）では軽快以上が33.0%、不変以上が81.6%で、悪化及び現病死が15.5%であった。
4. B細胞リンパ腫では粘膜関連リンパ組織の節外性辺縁帯リンパ腫(PCMZL)で軽快以上が63.8%、不変以上が88.4%、原発性皮膚濾胞中心リンパ腫(PCFCL)が各々56.1%、90.2%であるのに対し、原発性皮膚びまん性大細胞型B細胞リンパ腫、下肢型(PCDLBCL-LT)は各々49.2%、70.8%で、悪化及び現病死は順に5.8%、4,9%、9.2%であった。PCDLBCL-LTでは中止例も13.8%と他のリンパ腫と比べて高率であった。

謝辞: 本研究は下記のご施設の先生方にご協力いただきました（敬称略）。
ここにお礼申し上げます。
本研究は2021年以降も継続いたします。今後とも宜しくお願いいたします。
また、前回から本疫学調査は**日本皮膚科学会専門医の新専門医制度のアンケートの単位として認められています。**

施設名称	担当者
札幌医科大学附属病院	神谷勇文
弘前大学医学部附属病院	六戸大樹
岩手医科大学附属病院	三浦慎平
東北大学病院	千葉広夢
秋田大学医学部附属病院	山田勝裕
山形大学医学部附属病院	脇野隆之
筑波大学附属病院	田中亮多
自治医科大学附属病院	岡田憲文
獨協医科大学病院	金井美馬
群馬大学医学部附属病院	内山明彦
千葉大学医学部附属病院	松澤亮光
慶應義塾大学病院	船越　建
順天堂大学医学部附属浦安病院	金子高英
帝京大学医学部附属病院	林　耕太郎
東京医科大学病院	村松正法
東京女子医科大学東医療センター	石崎純子
東京大学医学部附属病院	菅　析
東京通信病院	林　剛生
東邦大学医療センター大橋病院	新山史朗
東邦大学医療センター大森病院	黒沼敦美
国家公務員共済組合連合会虎の門病院	佐々木　優
日本大学医学部附属板橋病院	石井まどか
昭和大学藤が丘病院	中田土起文
聖マリアンナ医科大学病院	宮垣朝光
東海大学医学部付属病院	齋藤麟子
新潟大学医歯学総合病院	酒井あかり
福井大学医学部附属病院	宮永美紀
山梨大学医学部附属病院	出口隆弥
信州大学医学部附属病院	岩出陽子
岐阜大学医学部附属病院	松山かなこ
浜松医科大学医学部附属病院	島内隆寿
愛知医科大学病院	服下武士
名古屋市立大学病院	井浪今日子
名古屋大学医学部附属病院	柳橋泰奈
藤田医科大学病院	伊藤裕幸
滋賀医科大学医学部附属病院	加太美保
京都大学医学部附属病院	中溝　聡
京都府立医科大学附属病院	小森敦史
大阪市立大学医学部附属病院	林　大輔
大阪大学医学部附属病院	清原英司
近畿大学医学部附属病院	岡橋一憲
神戸大学医学部附属病院	中野英司
奈良県立医科大学附属病院	小川浩平
島根大学医学部附属病院	白築理恵
岡山大学病院	平井隆至
川崎医科大学附属病院	田中　了
広島大学病院	亀頭晶子
徳島大学病院	矢田未央
愛媛大学医学部附属病院	西原克彦
九州大学病院	中原真希子
久留米大学医学部附属病院	武藤一考
産業医科大学病院	岡田悦子
福岡大学病院	山口和記
長崎大学病院	竹中　基
大分大学医学部附属病院	山手朋子
宮崎大学医学部附属病院	根本利恵子
鹿児島大学医学部・歯学部附属病院	藤井一恭
琉球大学病院	宮城拓也
製路加国際病院	新井　達
独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター	稲冲　真
NTT東日本関東病院	井波真矢子
自治医科大学附属さいたま医療センター	梅本尚可
東邦大学医療センター 佐倉病院	三津山信治
砂川市立病院	鑄田麻子
青森県立中央病院	原田　研
八戸市立市民病院	村井孝弥
東北労災病院	谷田宗男
独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター	飯澤　理
気仙沼市立病院	芳賀貴裕
地方独立行政法人 市立秋田総合病院	小関史郎
能代厚生医療センター	矢島晴美
水戸赤十字病院	小林桂子
前橋赤十字病院	曽我部隆子
伊勢崎市民病院	長谷川達子
SUBARU健康保険組合　太田記念病院	根岸　泉
桐生厚生総合病院	岡田克之
東京歯科大学市川総合病院	河野通良
医療法人鉄蓮会 亀田総合病院	田中　厚
帝京大学ちば総合医療センター	佐藤友隆
国家公務員共済組合連合会 九段坂病院	谷口裕子

施設名称	担当者
医療法人社団大坪会 東都文京病院	池　亨仁
社会福祉法人同愛記念病院財団 同愛記念病院	河瀬ゆり子
社会医療法人社団順江会 江東病院	竹内博美
東京都立広尾病院	岩渕うつぎ
日本赤十字社医療センター	今門純久
JR東京総合病院	大野祐樹
国立研究開発法人　国立成育医療研究センター	安田愛月
公立学校共済組合 関東中央病院	能　慎司
社会福祉法人聖母会 聖母病院	小林里実
独立行政法人地域医療機能推進機構 東京山手メディカルセンター	鳥居秀嗣
東京都立大塚病院	井上裂紗子
地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター	宮澤　雅恵子
公立昭和病院	鈴木大介
社会医療法人社団健生会 立川相互病院	尾立冬樹
町田市民病院	大塚　隆子
日本医科大学多摩永山病院	長田真一
川崎市立川崎病院	西本岡平
医療法人社団こうかん会 日本鋼管病院	石橋正史
労働者健康安全機構 関東労災病院	足立　真
神奈川県聖灯会 けいゆう病院	河原由恵
独立行政法人国立病院機構 相模原病院	大松華子
社会福祉法人恩賜財団 済生会横浜市東部病院	茶谷彩華
横浜市立みなと赤十字病院	渡邊　豪
社会福祉法人恩賜財団 済生会支部　神奈川県済生会横浜市南部病院	松倉節子
公益社団法人　地域医療振興協会　横須賀市立うわまち病院	中河原怜子
社会福祉法人　親善福祉協会　国際親善総合病院	松井矣寿恵
医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院	渡邊京子
平塚市民病院	栗原佑一
国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院	竹林英理子
長岡赤十字病院	岩井由樹
新潟医療生活協同組合木戸病院	河井一浩
新潟市民病院	藍山雅博
新潟県立がんセンター新潟病院	高塚純子
富山赤十字病院	大石亮介
公立能登総合病院	谷内克成
福井赤十字病院	八木洋輔
公益財団法人山梨厚生会 山梨厚生病院	田中敬子
長野県厚生農業協同組合連合会 長野松代総合病院	瀧澤好晃
諏訪赤十字病院	海野俊徳
伊那中央病院	福沢正男
岐阜市民病院	加納宏行
沼津市立病院	秦　まき
国際医療福祉大学熱海病院	岩田英一
地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院	増田 百合香
社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院	大場　操
磐田市立総合病院	佐野友哉
豊川市民病院	西尾安一
医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院	山之高志
社会医療法人宏潤会 大同病院	鶴田京子
独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター	清水　真
名古屋市立東部医療センター	岩井敦子
愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院	鈴木伸吾
独立行政法人労働者健康安全機構　旭ろうさい病院	榊原代幸
津島市民病院	竹内　誠
松阪市民病院	杉本恭子
地方独立行政法人　市立大津市民病院	實野　賢
近江八幡市立総合医療センター	末廣晃宏
社会医療法人誠光会 草津総合病院	今村和也
長浜赤十字病院	川端紀子
一般財団法人 住友病院	庄田裕紀子
地方独立行政法人大阪府立病院機構　大阪急性期・総合医療センター	大畑千佳
高槻市立病院	松本千穂
松下記念病院	森島陽一
独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター	夏見亜希
社会医療法人生長会 府中病院	吉岡啓子
泉和田病院会病院	駒村公美
独立行政法人地域医療機能推進機構 神戸中央病院	村西浩二
西宮市立中央病院	西谷奈生
医療法人明和病院	黒川一郎
市立伊丹病院	南　祥一郎
宝塚市立病院	山本哲久
自衛隊阪神病院	大倉隆昭
独立行政法人国立病院機構 姫路医療センター	福田　均
独立行政法人 労働者健康安全機構 和歌山労災病院	下松達哉
日本赤十字社和歌山医療センター	辻岡　馨
独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センター	南　宏典
公立那賀病院	米井　希
鳥取市立病院	増地　裕
川崎医科大学総合医療センター	山本剛伸
岡山済生会総合病院	宮富重美

施設名称	担当者
総合病院岡山市立市民病院	岡崎有佐子
独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター	眞部恵子
独立行政法人国立病院機構 福山医療センター	藤原　暖
広島県厚生農業協同組合連合会 尾道総合病院	松阪由紀
広島市立広島市民病院	加持達弥
地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立安佐市民病院	柳瀬哲至
JR広島病院	堀内賢二
広島県厚生農業協同組合連合会 庄島総合病院	梅田良樹
独立行政法人地域医療機能推進機構 徳山中央病院	中野純二
下関市立市民病院	内田　寛
地方独立行政法人 徳島県鳴門病院	長江恒夫
高松赤十字病院	浅田利久
愛媛県立中央病院	松立吉弘
高知県立あき総合病院	廣瀬康昭
独立行政法人　労働者健康安全機構 九州労災病院	吉岡　学
社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院	阿部成文
医療法人修腎会 藤崎病院	藤崎雅紀
地方独立行政法人　長崎市立病院機構 長崎みなとメディカルセンター	東　江里夏
日本赤十字社熊本原病院	宿輪哲生
国立療養所菊池恵楓園	竹上均子
独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院	守屋千賀子
大分市医師会立アルメイダ病院	岡本　修
東京都立小児総合医療センター	芝平知江子
自衛隊福岡病院	井上裕哲
学校法人国際医療福祉大学 国際医療福祉大学病院	大塚　勲
公益財団法人慈愛会 今村総合病院	米倉健太郎
労働者健康安全機構　山陰労災病院	三島エリカ
社会福祉法人恩賜財団 済生会川内病院	坂口昭代
医療法人啓信会京都さつき病院	西山瑞穂
医療法人社団三成会 新百合ヶ丘総合病院	飯島正文
公益財団法人 清香山病院	大荷智子
盛岡赤十字病院	馬場由香
社会福祉法人　恩賜財団　済生会支部　新潟県済生会　済生会新潟病院	橋本　剛
地方独立行政法人加古川市民病院機構　加古川中央市民病院	山田　陽三
独立行政法人地域医療機能推進機構 さいたま北部医療センター	山田郁子
富士宮市立病院	宮澤美彦
国立療養所 毛美和光園	馬場まゆみ
名寄市立総合病院	大石泰史
香川県立中央病院	森田俊彦
社会医療法人同心会 古賀総合病院	津守伸一郎
社会医療法人　泉和会 千代田病院	小田裕次郎
昭和大学江東豊洲病院	永田茂樹
三田市民病院	小岩博志
川崎市立井田病院	宮沢秀美
製鉄記念広畑病院	藤原　進
医療法人社団緑成会　横浜総合病院	鈴木　琢
公益財団法人ライフ・エクステンション研究所付属永寿総合病院	柴田直子
新潟県厚生連 新潟医療センター	松山麻子
地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市立こども病院	工藤恭子
土佐市立土佐市民病院	三好　研
新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院	藤原　浩
独立行政法人国立病院機構 鹿児島医療センター	松下茂人
つがる西北五広域連合 つがる総合病院	竹本啓伸
独立行政法人国立病院機構 青森病院	横山祥平
鳥取県立中央病院	足立孝司
神奈川県厚生農業協同組合連合会　相模原協同病院	西盛信幸
春日井市民病院	古橋卓也
社会医療法人　光生病院	谷田謙治
国立病院機構　福岡病院	西江温子
秋田県厚生農業協同組合連合会　大曲厚生医療センター	石河転久
医療法人　恒昭会　藍野病院	窪田正昭
大阪赤十字病院	立花　隆夫
医療法人　川村会　くぼかわ病院	志賀　建夫
市都山城総合医療センター	花田圭司
地方独立行政法人　大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター	深井和吉
医療法人　二慈会　指扇病院	横原啓恵子
公益財団法人がん研究会　有明病院	堤田　新
立正佼成会附属　佼成病院	早川　順
高知赤十字病院	藤岡　愛
唐津赤十字病院	草原雄一
姫路赤十字病院	黒田桂子
独立行政法人労働者健康安全機構 横浜労災病院	佐藤勘治
社会医療法人弘道会　守口生野記念病院	加藤晴久
独川市・袋井市病院企業団立 中東遠総合医療センター	大塚正樹
国際医療福祉大学	菅谷　誠